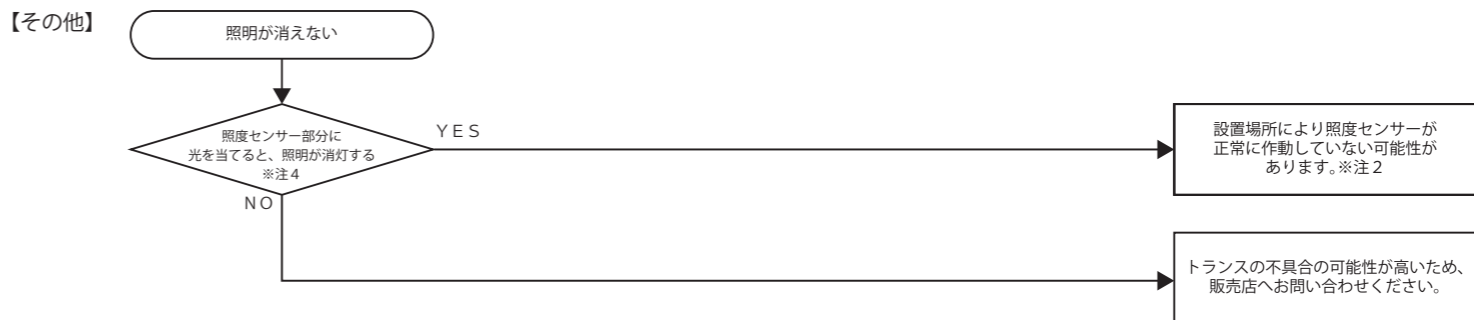
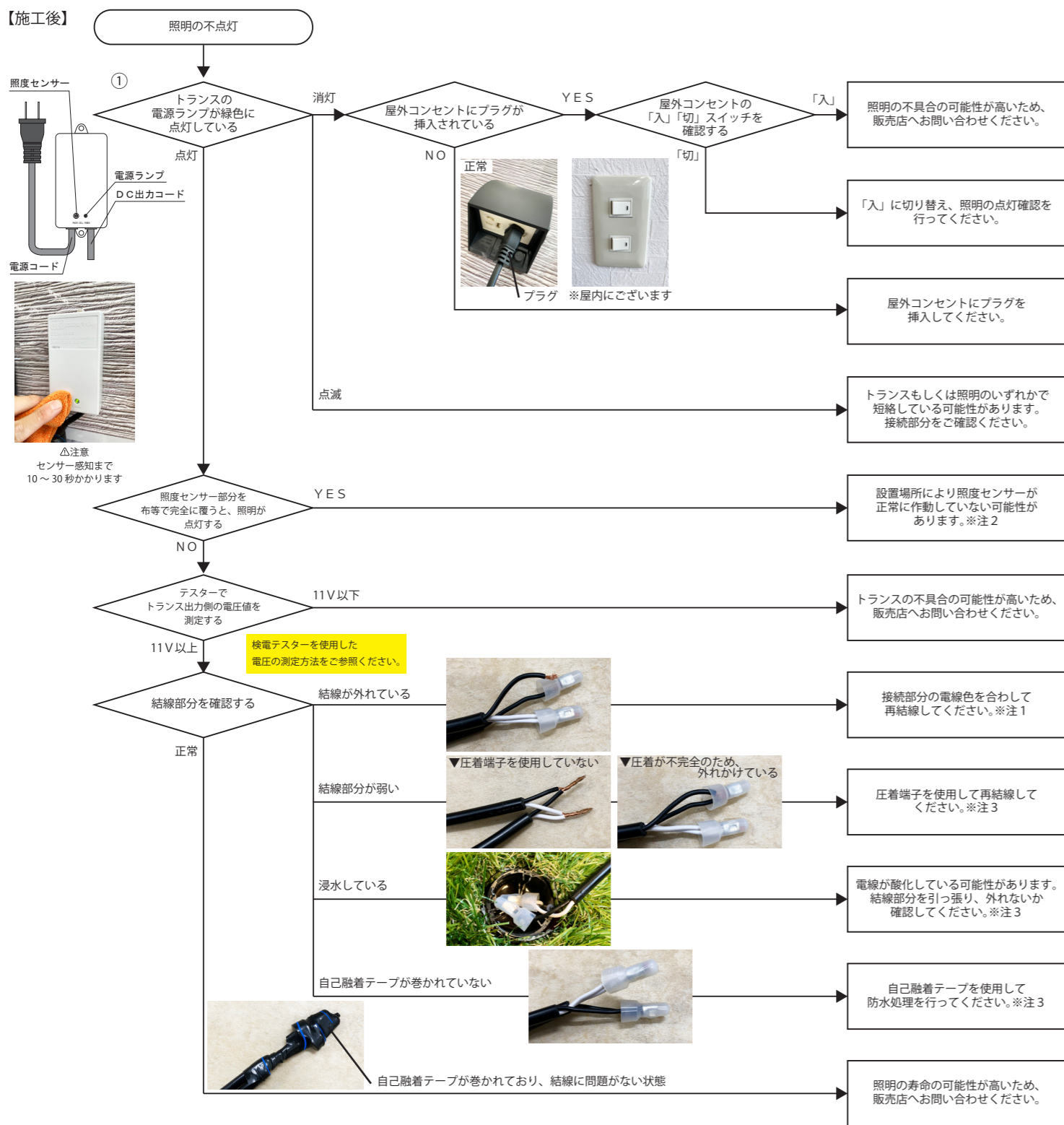
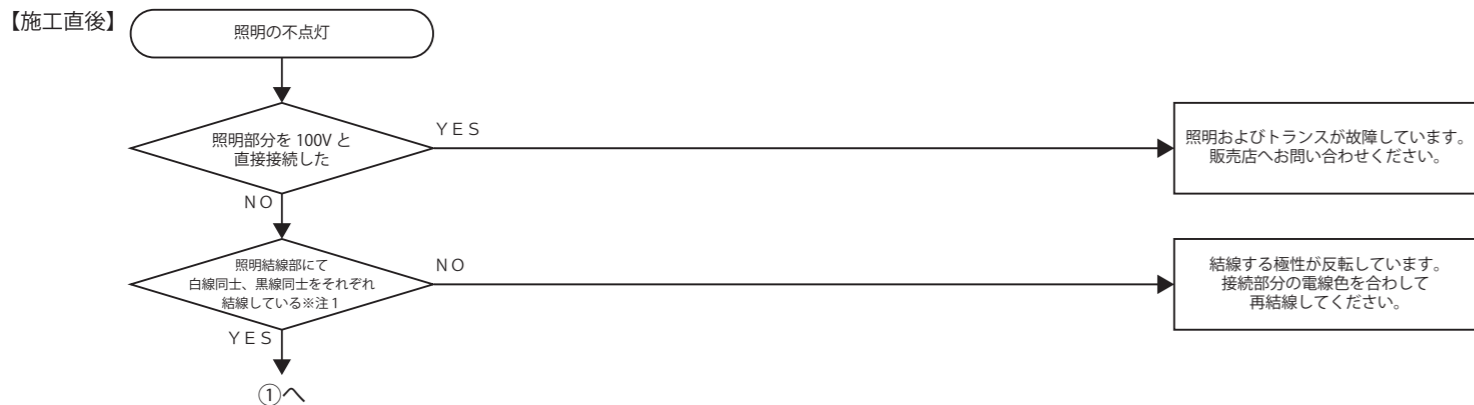


現場確認簡易フローチャート

本書は、代理店様・販店様および工事業者様向けの資料となります。本製品を施工した際は、本書をいつでも読むことができる場所に大切に保管しておいてください。下記項目について、照明類に関する不具合時の現象確認手順を示します。

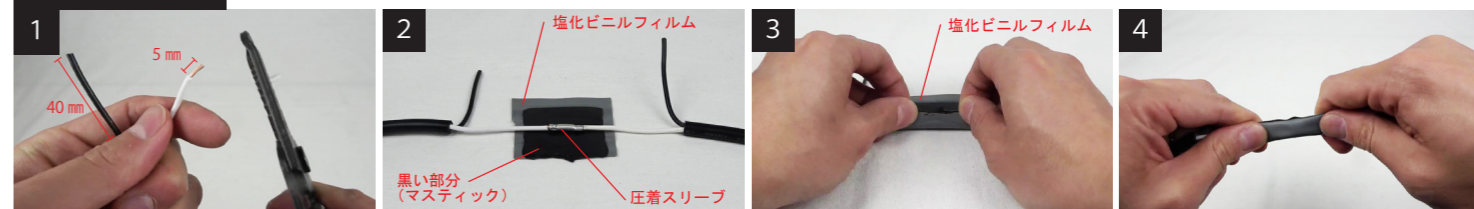


※注記

- 弊社製のトランス・照明は+極が白線、-極が黒線となっております。他社製のトランス・照明を使用された場合は、極性（+極、-極）を確認し、同じ極性同士を結線してください。
- 本トランスのセンサーは自然光の波長を感知することで、周囲の明るさを判断しています。その為設置場所によってはトランスが誤作動することがあります。日中トランスに自然光が当たる場所に設置していただくことをお勧めいたします。
- 今回の照明が不点灯となった原因ではないかもしれませんが、今後不点灯の要因になる可能性があります。圧着端子の使用および防水処理を行っていただくことをお勧めいたします。
- 本トランスは自然光には反応しやすいセンサーを使用しております。人工的な光では反応しない可能性があるため、必ず自然光で行ってください。

結線の施工方法

A 接続端子セット



接続するケーブルの被覆をケーブルストリッパ、コードストリッパなどを用いて上図の寸法で脱皮処理を行う。

パッドの剥離紙を剥がし、圧着したスリーブ1個をマスティック中央に載せる。※

上図のように接続部をパッドで包み込むように巻き付ける。

パッドの端から端まで上図のように上下に指で挟み、圧をかけて完了です。

※注意：パッド1個に対して圧着スリーブ1個とすること。パッド1個に対して圧着スリーブ2個を使用した場合、ショートし火災に至る可能性があります。

B 圧着閉端子



接続するケーブルの被覆を上図の寸法で脱皮処理を行う。結線する2本のケーブル同士をねじり、閉端子の先端からケーブルが見える位置まで挿し込む。

圧着工具を用いて閉端子の中央が潰れるように圧着する。圧着後は結線部分を引っ張り、外れないか確認してください。

ケーブルと閉端子の段差を埋めるように自己融着テープを巻いていく。隙間ができないように自己融着テープは必ず引き伸ばしながら巻いていく。

端子同士をさらに自己融着テープで巻いていく。閉端子の先端から巻きはじめ、脱皮したケーブルを折り返すように巻いていく。

自己融着テープに隙間がないか確認して完了です。

検電テスターを使用した電圧の測定方法

液晶表示パネル

テストリード測定端子 (赤)

テストリード測定端子 (黒)

ワンタッチ端子を使用した場合

ワンタッチ端子の空いている箇所よりテストリードを銅管に接触させます。

圧着閉端子を使用した場合

閉端子端子内の銅管にテストリードを接触させます。

正しい測定表示例

DC (直流) 表記であることをご確認ください。

測定したい箇所へテストリードを接触させます。赤のテストリードは白線 (+極)、黒のテストリードは黒線 (-極) をそれぞれ結線した端子に接触させます。

拡大図

直流電圧 V=

交流電圧 V~

OFF

V= (直流電圧) にダイヤルを合わせ、右図のように DC 表記されたことを確認する。

誤った測定表示例

他社製のトランス・照明を使用された場合は、極性 (+極、-極) を確認し、同じ極性同士を結線してください。

-(マイナス) 表記が出る場合、極性表示が反転しています。

※検電テスターの取り扱い方法はご使用のメーカーによって異なる場合がございます。お手元の検電テスターの取扱説明書による方法をご確認ください。